

聖書の物語と私たち ⑬
イスラエル王国時代その2

司祭。パウロ鈴木伸明

ゴリアトを倒したダビデ

サムエルは、サウルが王から退けられたことで嘆いていましたが、神様はサムエルに次の王の任命を命じました。すでに神様は、エッサイの息子の中に王となるべき者を見つけていました。その人物がダビデです。ダビデはもともと、サウル王に豎琴を聴かせる者として召し出されました。ダビデはサウルに仕え、サウルはダビデが大層気に入りました。ダビデが豎琴を奏でますとサウルは心が安まって気分がよくなりました(サムエル記上16章23節)。

さて、ペリシテとの戦いが再びやってきました。この時ペリシテ軍にはゴリアトという戦士がおりました。ゴリアトは身長6アンマ半(約292.5cm)の大男で、その上5000シケル(約57kg)の鎧を着ていました。このゴリアトがイスラエルに対して一騎打ちを申し出てきました。ダビデはまだ少年でしたが、ゴリアトへの挑戦を名乗り出しました。ダビデは神が必ず守ってくださるとの確信に満ちていたのでした。

ダビデは袋に入れておいた小石を取り出して石投げ紐を使って飛ばし、ゴリアトの額を撃ちました。石はゴリアトの額に食い込み、打ち倒したのでした。ダビデの手には剣もありませんでした。これによってイスラエルは大いに勇気づけられ、ペリシテの撃退に成功したのでした。

戻ってきたダビデは人々に熱狂的に迎えられました。しかしこのことがきっかけで、サウルよりダビデのほうが人々の評判が高くなってしまいました。サウルは激怒し、ついにダビデを殺そうと考えるようになりました。サウルは息子のヨナタンと家臣全員に、ダビデを殺すことを命じます。

ダビデとヨナタン

サウルの息子ヨナタンはダビデに対し深い愛情をいだいていました。で、ダビデの逃亡を考えました。

「明後日に、あなたは先の事件の日に身を隠した場所に下り、エゼルの石の傍らにいなさい。わたしは、その辺りに向けて、的を射るように、矢を三本放とう。それから、『矢を



中塚 梢 画

見つけて来い」と言って従者をやるが、そのとき従者に、『矢はお前の手前にある、持って来い』と声をかけたら、出て来なさい。主は生きておられる。あなたは無事だ。何事も無い。だがもし、その従者に、『矢はあなたのもっと先だ』と言ったら、逃げなければならぬ。主があなたを去らせるのだ。わたしとあなたが

取り決めたこの事については、主がとこしえにわたしとあなたの間におられる。」

ダビデは野に身を隠した。(サムエル記上20章19節から24節)

翌朝、取り決めた時刻に、ヨナタンは年若い従者を連れて野に出た。「矢を射るから走って行って

見つけ出して来い」と言いつけると、従者は駆け出した。ヨナタンは彼を越えるように矢を射た。ヨナタンの射た矢の辺りに少年が着くと、ヨナタンは後ろから呼ばわった。「矢はお前のもっと先ではないか。」ヨナタンは従者の後ろから、「早くしろ、急げ、立ち止まるな」と声をかけた。従者は矢を拾い上げ、主人のところに戻って来た。従者は何も知らな

かったが、ダビデとヨナタンはその意味を知っていた。ヨナタンは武器を従者に渡すと、「町に持って帰ってくれ」と言った。従者が帰って行くとき、ダビデは南側から出て来て地にひれ伏し、三度礼をした。彼らは互に口づけし、共に泣いた。ダビデはいっそう激しく泣いた。(サムエル記上20章35節から41節)

こうしてダビデはサウルの手から逃れることとなります。その後ダビデは自分を危機に陥れているサウルを攻撃出来る機会が2度ありましたが(サムエル記上24章5節、26章8節)、神様によって油注がれたサウルを保護しました。これは「神の意志」を尊重したダビデの信仰的な姿の現れということが出来ましょう。

最後の大士師として活躍したサムエルも亡くなりました(サムエル記上25章1節)。サウルはもはや頼る者もなく、ギルボア山における最後の戦いに臨むことになりました(サムエル記上28章4節)。イスラエルはペリシテの前に敗北し、サウル、そしてサウルの息子ヨナタンも死んでしまいます。サウルの悲劇的な生涯の最後でした(サムエル記上31章)。

(川越キリスト教会牧師)